

■6 学生支援に関する事項

1 キャリア開発・就職支援について

「キャリア教育」および「キャリア開発・就職支援」は、本学の重点的施策のひとつに位置づけ、「教学こそが最大のキャリア支援である」という認識のもと、教学と連携し、普段からの教育活動を通して学生の自己成長を促しながら、将来に向けた進路選択支援に取り組んでいる。更に「大学生活のすべてが成長するフィールドである」との観点に加え、学生生活全般も含めた総合的な視点から、学生の自主的な活動機会の場を提供している各部署と連携し、支援の強化に努めている。

2010年度から始動した第5次長期計画においては、各関連部署の協力を得て、「キャリア支援ポリシー」の確立に向けて議論を行った。内容的には、「キャリア教育」と「就職支援」の2点をキャリア支援の重要な柱とし、それに基づき様々な事業を実施した。さらにキャリア教育については、全学的なキャリア教育のあり方を検討する委員会を設置し、正課教育と正課外教育の重要性について議論を行い、キャリア開発部としての方向性を示した。就職支援については、①業界・企業研究、②筆記試験対策、③書類対策、④面接対策の4つのポイントを中心に支援に取り組み、とりわけ筆記試験、書類対策に注力して支援を強化した。

1 キャリア開発支援の展開

●就職情報システムリプレイスの実施

2012年3月卒業生を対象に「学生が見たいと感じるインターフェイス・コンテンツ・情報発信」をコンセプトとした本学独自の新就職支援システムを9月より一部稼働した。さらに、2011年度より、すべての就職活動生を対象に本格稼働させ支援体制を充実する。

●学部とキャリア開発部の連携による就職・進路状況報告の実施

学部別の就職・進路状況に加え、学生の就職活動に対する調査結果を各学部の会議等で報告すると同時に、学部に応じた就職支援が行えるよう各学部とキャリア開発部との連携・協働を強化した。

●低年次生を対象とした合宿形式イベントの実施

2年次生を対象に、京都産業大学・京都女子大学と連携し、9月に1泊2日の合宿形式のイベントを実施し、約40名の学生が参加した。他大学、他学部の学生との交流を通じて、自己を見つめ直し、自己の成長を図る機会として、また、今後の就職活動に臨む仲間づくりの場としても有効であった。

2 キャリア支援講座の展開

●学生・社会のニーズに対応した資格系対策講座の提供

学生・社会のニーズに対応した資格系対策講座を厳選し、学内で実施した。これにより、学生の時間的、経済的

負担を抑え、資格取得にチャレンジしやすい環境を提供できたことから、支援講座全体で昨年度比121%の受講者となった。

●公務員講座の充実

一人でも多くの公務員合格者を輩出できるように、理解度が低い科目に対しては補講を行うなどのフォローアップの充実に努め、また低年次から受講できるように改善を行った結果、受講者が昨年度比115%となった。さらに、夏季休暇中に前期の総括的な講座を実施し、きめ細やかな支援体制を強化した。

●ホームヘルパー2級講座の充実

福祉職へのニーズの高まりを受け、深草・瀬田キャンパスにおいて、前期・後期あわせて計4講座開講した。さらに、学生のニーズに応えるため、当初予定していた開講講座に加えて、3講座を追加で開講（あわせて7講座を開講）した。

3 インターンシップの展開

●協定型インターンシップの基盤整備

協定型インターンシップへの応募者は、昨年度と比べて168%と大幅増となり、さらに公平かつ適切な選考が可能となるよう面接方法・面接基準等を改善した。また、2011年度に向けて学生ニーズに応えられるよう、担当コーディネーター教員を増やすなどの検討を行い、2011年度の運営体制の整備を図った。

●実習内容の充実と受入先企業・団体の新規開拓

最終プレゼンテーション準備時間を多く確保するために、事後研修の日数を2日から3日に増やし、同時にコーディネーターの指導内容を充実させた。また、インターンシップ受入先の企業・団体数は、2009年度より11社多い74社で、参加学生数も17名多い117名で実施した。

●インターンシップ報告会の開催について

インターンシップ終了後、受入先企業関係者を招聘した報告会を開催し、学生によるプレゼンテーション等を実施した結果、企業からは好評を得ることができた。一方で、参加企業数が予想していたよりも少なかったため、参加企業数を増やすための検討が今後の課題となった。



●多様なインターンシップへの参加支援

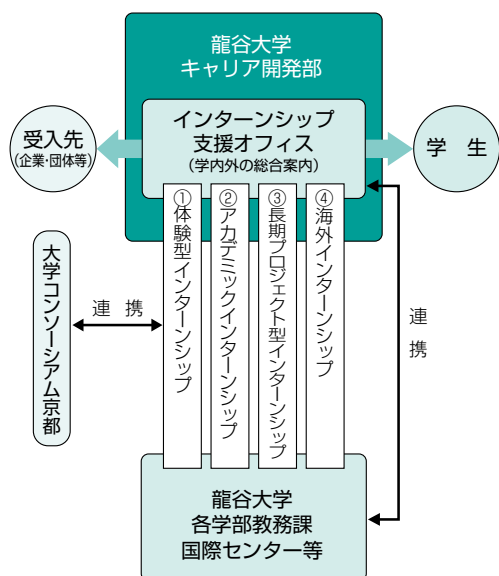
協定型インターンシップ以外にも、学生が多様なインターンシップに参加することを促進するため、インターンシップ説明会を開催した。また、自己応募型インターンシ

ップ参加学生に対して、その成果が上がるよう、協定型インターンシップのマナー講座やリスク管理講座などが受講できるように支援体制を充実した。

インターンシッププログラムの展開

4つのタイプのインターンシッププログラムを全学で展開し、学生の自立とキャリア形成を支援しています。

〈インターンシップの推進体制とプログラムの概要〉



①体験型インターンシップ

企業・行政機関・NPO等において行う、実習期間が2週間～1カ月程度の短期体験型学習プログラムです。

②アカデミックインターンシップ

学部専門教育の一つの柱として、学部の専門性をいかしたプログラムで、龍谷大学インターンシップのコアプログラムです。

③長期プロジェクト型インターンシップ

高度人材育成を念頭に置いた長期プロジェクト型インターンシップ(期間は少なくとも1セメスター：半年間)で、プログラム形成そのものを学生と共に構築し、明確にアウトプットがわかるプロジェクト型成果重視のインターンシップです。

④海外インターンシップ

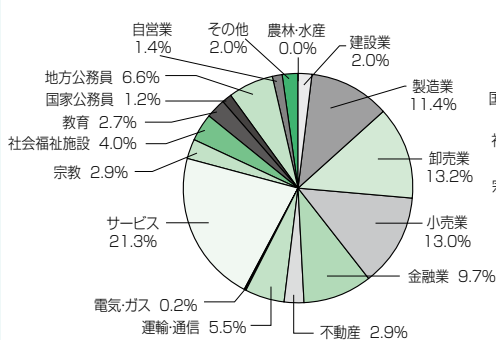
体験型・アカデミック・長期プロジェクト型インターンシップを海外で展開します。

〈2010年度 龍谷大学インターンシッププログラムの実施状況〉

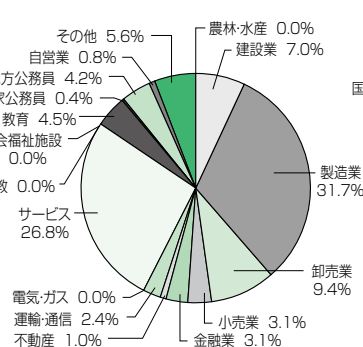
インターンシップ名称	プログラム名称	単位認定	対象	参加人数
①体験型 インターンシップ	大学コンソーシアム京都インターンシップ 「夏期インターンシップ」	学部により異なる	全学部	124
	「協定型インターンシップ」	認定 (短大以外)	全学部	117
	「自己応募型インターンシップ」 一企業・団体等が独自に行うインターンシップに学生自ら応募するインターンシップ	学部により異なる	全学部	30
②アカデミック インターンシップ	「特別講座Ⅰ-伏見区インターンシッププログラム」	認定	経済学部	34
	「法律実務論」	認定	法学部	18
	「特別講義Ⅱ(法律実務Ⅱ)」	認定	法学部	18
	「特別講義Ⅲ(法律実務Ⅲ)」	認定	法学部	18
	「学外実習」	認定	理工学部	353
	「キャリアアップ実習」	認定	社会学部(コミュニティマネジメント学科)	0
	「フィールド実習」	認定	社会学部(コミュニティマネジメント学科)	0
	「コミュニティマネジメント実習」	認定	社会学部(コミュニティマネジメント学科)	6
	「社会福祉援助技術現場実習」	認定	短期大学部(社会福祉科)	131
	「ソーシャルワーク現場実習」	認定	短期大学部(社会福祉科)	99
③長期 プロジェクト型 インターンシップ	大学コンソーシアム京都インターンシップ 「長期プロジェクト型インターンシップ」	学部により異なる	全学部	4
	高度人材育成を目的としたインターンシップ 「法務研修」	認定	法務研究科(法科大学院)	25
	高度人材育成を目的としたインターンシップ 「行政インターンシップⅠ・Ⅱ」 「NPOインターンシップⅠ・Ⅱ」	認定	法学研究科・経済学研究科・社会学研究科	4
	「海外インターンシップ(途上国)」 「海外インターンシップ(米国)」	認定	法学研究科・経済学研究科(NPO地方行政コース)	1
④海外 インターンシップ	「短期留学制度(インターンシップ)」	認定	国際文化学部	0
	「BIE Program」(BIE: Berkeley Internship and English Program)	認定	全学部	97
合 計				1,043

2010年度卒業生の業種別進路選択状況

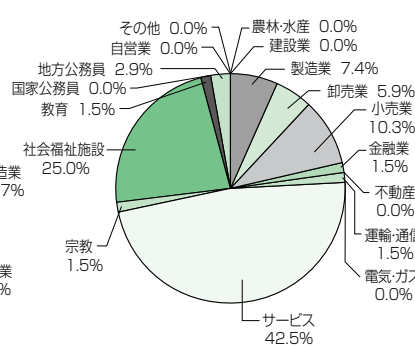
＜文系学部＞



＜理工学部＞



＜短期大学部＞



4 就職活動の支援

●進路未決定学生に対する支援

Web履修登録と連動した「就職状況把握システム」により、4月時点で就職活動に支障をきたしているすべての学生の状況を把握し、面談強化などのサポート体制を充実した。さらに4回生の進路未決定者全員に、電話による連絡を行うなどして、個別面談に誘導し、就職相談を実施した。

●大阪梅田キャンパスの支援充実

立地条件を有効に活用し、就職年次生を対象とした支援セミナーや企業セミナーを随時開催した。特に企業セミナーについては、参加企業98社に対し、延べ1,334名の学生が参加し、企業と学生のマッチングを中心とした進路未決定者の支援に取り組んだ。

●東京オフィスを活かした就職支援

首都圏を中心に、企業・行政・他大学などの情報収集を行い、就職活動生に有益な情報提供を行うと同時に、首都圏で就職活動を行う学生の拠点として、窓口相談等の支援を行った。

●大学院生、障がいを持った学生、留学生へのキャリア開発支援

大学院生に対しては、学部と並行して就職支援を行い、さらに大学院進学希望者に対しては、就職ガイダンス（キャリアデザインフェア）において個別の相談窓口を設けた。障がいを持つ学生については、個別の対応を充実するとともに、3月に障がい者支援セミナーを開催した。留学生については、留学生就職支援プログラムを実施し、受講生は40コマで述べ211名であった。

●卒業生支援の充実

卒業生支援については、人材派遣会社と業務契約を行いキャリアカウンセリングだけでなく、既卒者対象の求人情報の収集や求人開拓を積極的に行った。

●筆記試験対策への取組

すべての就職活動生を対象に、筆記試験の対策として、「SPI模擬試験（6・10月）」と「弱点補強講座（9・10月）」を無料で実施し、より早い時期に筆記試験に対する意識を啓発し、その対策に取り組んだ。

●エントリーシート書き方講座の充実

採用選考の中で、エントリーシートを活用した書類選考を行う企業が多い。その対策として、すべての就職活動生を対象にした「エントリーシート書き方講座（9・10月）」を無料で開講した。

5 企業の開拓

●新規企業開拓

学生の就職先が多い関西地区については、キャリア開発部のスタッフがエリア別に担当し、学内の企業セミナーへの誘導や新規企業の求人開拓、採用に係る情報収集等のための企業訪問を行った。

●人気企業へのアプローチ

首都圏に本社をおき、業界を牽引するような学生からの人気が高い企業に対して、学内の企業セミナーへの誘致や採用に係る情報収集を行うため、企業訪問を強化した。

●企業・大学懇親会の開催

東京と大阪において、企業を招聘し「企業・大学懇親会」を開催し、企業とのパイプを強くするようプログラムの充実に努め交流を行った。

●全国保護者懇談会に合わせた開催地域の企業訪問

2009年度に引き続き、前期に開催される全国保護者懇談会に合わせて、開催地域の企業やジョブ・カフェなどの行政機関を訪問し、Uターン希望者への追加募集などの情報を効果的に収集するよう活動した。

2 学生生活・課外活動支援について

経済的支援事業、学生生活支援及び課外活動支援事業を中心に、学生生活が充実するよう努めた。

経済支援では、本学独自奨学金の給付や、短期貸付金制度、学費の延・分納制度、日本学生支援機構奨学金を中心に支援を行った。更に、2008年以降の経済不況に伴い、家計支持者の失職や家計困窮に陥る家庭が増加したことを受け、「経済不況に伴う緊急特別経済援助奨学金制度」を2009-2010年度の時限的に制定して給付を行った。

学生生活支援では、「なんでも相談室」や保健管理センターに設置した「こころの相談室」を通じて、学生の様々な悩みについて解決を図るよう支援を行った。また、カルト対策や薬物への注意喚起、卒煙キャンペーン、交通安全等の啓発活動を実施した。

課外活動支援では、校友会諸団体やサークル関係者と連携しながら多面的な支援を実施した。特に課外活動を学生のキャリア形成の重要な場と捉え、課外活動への支援が大学全体に波及するよう幅広く支援を行った。

1 経済的支援（奨学金など）の充実

●龍谷大学給付奨学生（家計奨学生）による経済支援

経済的な支援が必要な学生170名に対して大学独自の奨学金を給付し経済支援を行った。

●「経済不況に伴う緊急特別経済援助奨学金」制度による経済支援

2008年以降の経済不況に伴い、家計が困窮した学生を対象として時限的に設けた本奨学金制度において、121名に奨学金を給付した。

●学費の延納・分納制度及び短期貸付金制度による学費支援

経済的理由により学費の納入が困難な学生を対象として、学費の延納・分納制度を活用して支援を行った。また、一時的に生活費等に困った学生に対しては、短期貸付金制度で支援を行った。

●日本学生支援機構奨学金の緊急・応急採用による経済支援

昨今の経済事情悪化に伴い、日本学生支援機構奨学金の緊急・応急採用の推薦を随時行い、家計が困窮している学生に対して経済支援を行った。

奨学金による支援状況〈2010年度〉

龍谷大学の奨学金制度（※下表は全て給付型の制度です）

奨学金の種別		支給対象学生数（人）	支給総額（円）
龍谷大学給付奨学金	学業成績優秀奨学生	311	66,400,000
	大学院研究支援奨学生	42	12,680,000
	大学院特別給付奨学生	83	22,983,800
	仏教活動奨学生	25	1,000,000
	優秀スポーツ奨学生	61	21,123,300
	課外活動等奨学生	6	800,000
	家計奨学生	170	34,000,000
	外国人留学生特別奨学生	74	33,579,000
	法科大学院学業奨学生	20	19,500,000
	BIE Program奨学生	8	1,600,000
	私費派遣留学生奨励奨学金	26	3,900,000
	理工学研究科博士後期課程特別給付奨学金	9	2,119,500
龍谷大学学費援助奨学金	外国人留学生学費援助奨学生	392	126,460,450
	地域人材育成学費援助奨学生	9	6,767,000
	アカデミック・スカラシップ奨学金	53	20,788,500
	法科大学院学費援助奨学生	2	2,600,000
龍谷大学親和会による奨学金	親和会学生活動奨学生	17	2,000,000
	親和会海外研修奨学生	7	1,090,000
	親和会学生救済型奨学生	6	2,302,000
	校友会奨励金	8	500,000
その他	沼田奨学金	6	8,559,000
	北畠給付奨学金	2	731,000
	六角仏教協会奨学金基金	3	450,000
	経済不況に伴う緊急特別経済援助奨学金	121	30,352,000
	合計	1,461	422,285,550

奨学金の種別		支給対象学生数（人）	支給総額（円）
龍谷大学以外の奨学金制度			
民間・地方自治体の給付奨学生（14種類）		36	20,500,000
日本学生支援機構の給付奨学生（3種類）		97	46,164,000
民間・地方自治体の貸与奨学生（14種類）		43	23,560,000
日本学生支援機構の貸与奨学生（4種類）		7,381	6,195,274,000

2 学生生活に関する相談・支援

●なんでも相談室

学生生活に係わる、あらゆるジャンルの相談を受け付ける“なんでも相談窓口”を学生部内に設置し、複雑化する相談内容に専門の担当者が適切なアドバイス・情報提供等を行い、学生生活のサポートに対応した。

●こころの相談室

保健管理センター内に設置した「こころの相談室」において、臨床心理士が学生生活の中で直面する問題や悩みについて心理的なサポートに対応した。

●トラブル防止策の検討

マルチ商法・架空請求等の悪質商法やカルト宗教の勧誘が活発化する傾向があるため、弁護士会や近隣大学からの情報収集を行うとともに「カルトの被害から学生を守るための基本方針」を定め、啓蒙活動を行った。また、盗難防止キャンペーンを開催し、トラブルに巻き込まれないよう注意を呼びかけた。

●禁煙の推進

禁煙啓発のリーフレット等を作成し、学友会と協力し、学生に対し「タバコを吸わないこと」「卒煙」「マナーアップ」等を訴えた。また、禁煙推進委員会において、2009年度から実施した全面禁煙の検証を行い、過渡的措置として「卒煙支援ブース」を各キャンパスに設置し、更なる禁煙推進策の展開を決定した。

●その他学生生活支援

学生教育研究災害保険への全員加入により、安心して正課・課外活動に参加できるように引き続き支援を行った。

3 課外活動の支援

●課外活動基本方針の堅持

「課外活動は正課授業とあいまって大学教育の重要な一環である」という基本理念に則り、大学で課外活動をおこなうことが人格形成・人間形成に役立つ「教育」の場であるとの認識のもと、大学全体の活性化に向け、積極的な支援に努めた。

●課外活動の学内広報の強化

試合や発表会への応援や観客の増員を図るため、学友会と協力しホームページやチラシの作成、マスコットキャラクターによる広報活動を行った。また、試合状況のインターネットによる速報、卒業生へのメール送信、懸垂幕による結果報告を実施した。



● トレーニングセンターの充実

瀬田学舎トレーニングセンターを移転、リニューアルし、瀬田学舎を活動拠点とするサークルや学生のスポーツ支援の充実を図った。

● 課外活動推進策の検討

第5次長期計画アクションプランに基づき、課外活動の活性化等に関する具体的な方策・実施計画の検討を開始した。

● サークル活動に対する経済的支援の実施

各種サークル活動に伴う大会遠征や定期演奏会開催等にかかる費用について、経済的支援を講じ、課外活動の活性化に向けた支援を行った。

● 学生の主体的活動に係る支援体制の再構築

学生らしい自由な発想がより発揮できるよう学生の自主的・主体的な活動が支援できるよう、新たな制度等の確立を目指して検討を開始した。

● アバンティ響都ホールの積極的活用

練習や発表の拠点として京都駅前にあるアバンティ響都ホールを新たに設置し、その活用を推進した。また、学生が使用する時間帯のホール予約業務を学生が担うことにより、新たな課外活動施設の管理・運営を通じ自主性、自律性の醸成を図った。併せて、地域への周知を図るため著名音楽家と吹奏楽部による「ともいきコンサート」を開催した。

4 課外教育の展開

● 新入生フレッシューズキャンプの実施

「建学の精神の普及と醸成及び学生生活を有意義に送るための助言・指導」を目的に新入生フレッシューズキャンプを実施した。在学生ヘルパーが、ホスピタリティ精神を持って運営に携わり、新入生の帰属意識向上や学生生活を送る上で重要となる人的ネットワークの構築を図った。

● 国際性の涵養やリーダーシップ養成を意図した事業（海外友好セミナー）の実施

国際的な視野とキャリアアップにつながることを目的として、従来の海外友好セミナーをベースとした海外友好セミナーin USA ～Global Career Program～を実施した。日本大使館や国連本部、日本企業の現地幹部等関係者との懇談を通じて、国際的感覚やグローバルな職業観を身につける機会を提供した。また、BIEプログラム参加学生との交流会等を実施し、同プログラムの良さを体感するとともに、語学力習得の重要性を再確認する機会とした。

5 学生行事の支援

● 「新入生歓迎イベント」への支援

学友会が「新入生オリエンテーション」期間中に実施する「各種新入生歓迎イベント」での、活動に関する助言・指導及びバスの手配などの支援を行った。

● 学友会主催「フレッシューズキャンプ」及び「リーダースキャンプ」への支援

「フレッシューズキャンプ」及び「リーダースキャンプ」を主催する学友会の4局（宗教局・学術文化局・体育局・放送局）所属サークル員に対し、大学生として課外活動を行う上での心構えやリーダーシップ論の講演、経済的支援

等を行った。

● 「夕照コンサート」への支援

地域の小学校・中学校・高校の吹奏楽団体等と本学学友会吹奏楽部とのジョイントコンサートを通して地域との交流を目的とする「夕照コンサート」（8月、瀬田キャンパスにて開催）を多面的に支援した。

● 鳥取県との連携協定に基づく交流会の実施

鳥取県出身学生と鳥取県関係者（企業・県職員・同県出身の教職員）との世代間交流会を2回に渡り実施した。

● 「創立記念降誕会」「顕真週間」「龍谷祭」「学術文化祭」等への支援

「創立記念降誕会」「顕真週間」「龍谷祭」「学術文化祭」といった各種学生行事の実行委員に対して、多面的な支援を実施した。特に、学生の主体的な取り組みへの相談や助言・指導・資金面での援助等を行った。

● 吹奏楽フェスタin OSAKA

大阪地区において、本学の活動を紹介する機会として、大阪府下の3高校（刀根山・寝屋川・東住吉）とのジョイントコンサートを行った。課外活動分野における高大接続連携の新しいあり方として、1,000人を超える聴衆にアピールする機会となった。



6 学生自治活動の支援

● 「学生中心の大学づくり」の促進

大学の構成員である学生・教員・職員の三者の代表によって構成される全学協議会（11月開催）を開催し、学生の意見を踏まえた大学作りが促進されるよう努めた。

● 学友会中央執行委員会との定例ミーティングの有効活用

学生部と学友会中央執行委員会による定例ミーティングを週1回開催し、学生が抱えている喫緊の諸問題や課題を適切かつ迅速に把握・解決することが出来るよう努めた。

● 学生と教職員間のコミュニケーション時間を確保

前述の定例ミーティングや、学友会幹部との情報交換会の実施により学生と教職員間のコミュニケーションを促し、学生自治活動へのアドバイスや学生のニーズの把握、問題点をあらゆる観点からサポートできるよう努めた。

7 ボランティア・NPO活動の支援

ボランティア・NPO活動センターは、ボランティア活動を共生教育のひとつとして位置づけ、思いやりと責任感のある行動的な人間を育成し、社会貢献に寄与することを目的としている。そのために、国内外の高等教育機関、各種のNPO・NGO、浄土真宗本願寺派、地方公共団体等々との交流を深め、学内外における様々なボランティア活動の振興を図っている。2010年度はセンター設置10年目を迎え、記念事業を行い、ボランティア・NPO活動センターの成果を学内外に発信した。

●ボランティアリーダーの育成

ボランティアリーダー育成事業では、ボランティアリーダー養成講座（入門コース、養成コース）を4回実施し、学内外で活躍する方々を講師として招聘し、講義やワークショップを行った。

●海外でのボランティアの体験

海外体験学習プログラムでは、本学教員が企画・引率するプログラム2企画と学外団体が主催するスタディーツアー3企画に学生33名が参加し、6カ国を訪問した。

●一般学生・教職員へのボランティアの啓発

ボランティアコーディネーターと学生スタッフの協働により、ボランティア事業やキャンペーン・講演会等を実施し、一般学生・教職員へボランティアの啓発を図った。

●地域社会へのつなぎ

地域の学外団体との関係をより強めるため、既存の事業の他に、滋賀県、大津市、京都市、伏見区など地域社会と学内サークルとをつなぐボランティアコーディネーションの仕組みによる事業を実施した。

●センターの活動広報の強化

センターの事業がリアルタイムで記載できるようにホームページの運用方法を工夫し、活動内容の広報強化に取り組んだ。また、学生スタッフによる学生向け広報誌の発行、センターによる教職員用センター通信の発行など、広報誌を通じた広報活動にも積極的に取り組んだ。

●学生スタッフとの協働と支援

ボランティア・NPO活動センター会議において、学生スタッフと教職員とが意見交換をしながら協働して事業を実施した。また、日常的にはコーディネーターが学生スタッフの課題について相談にのり、様々なスキルを身に付けるための講座の提供や学外セミナーへの参加の補助も行った。

●センターと各教学組織の連携

センターと各教学組織とが連携し、ボランティア関連科目群の設置に向けて検討を行った。

●10周年記念事業の実施

センターの10周年記念事業として、記念講演会や祝賀会を開催する他、10周年記念冊子を発刊した。また、全国ボ

課外活動の主な成績一覧

〈2010年度〉

サークル名	大会名	開催日	成績	備考
硬式野球部	関西六大学秋季リーグ戦		優勝	
	関西地区大学野球選手権	11/1～3	優勝	
	明治神宮野球大会	11/15～	出場	
陸上競技部	日本学生陸上競技個人選手権大会	6/18～20	6位（芝田） 7位（中大路）	400mH 300mSC
	アジアジュニア選手権	7/3	優勝（芝田）	400MH
端艇部	全日本選手権大会	9/7～12	3位（墨友） 3位（上田） 8位（安田・山室） 4位（安藤・山室）	女子シングルスカル 男子シングルスカル 男子舵手無しペア 女子舵手無しペア
アメリカンフットボール部	秋季リーグ戦	12/12		1部昇格
柔道部	関西学生柔道体重別選手権大会 関西学生女子柔道体重別選手権大会	9/4～5	優勝（肥後） 優勝（三輪） 3位（蛸谷） 3位（西川） 3位（稲葉）	66kg級 57kg級 100kg級 57kg級 57kg級
	全日本柔道体重別選手権大会	10/9～10	ベスト16（蛸谷） ベスト8（西川） ベスト8（三輪）	－100kg級 －57kg級 －57kg級
卓球部	関西学生春季リーグ戦	5/8～	男子2部優勝	1部昇格
	全日本大学対抗卓球選手権大会	8/9～12	ベスト16	
バドミントン部	西日本学生選手権	8/25～9/2	準優勝 3位 3位（松原） 準優勝（稲葉） 3位 ベスト8（東野）	男子団体 女子団体 男子単 女子単 女子複
	全日本学生バドミントン選手権	10/15～21	ベスト16 ベスト8 ベスト16（稲葉）	男子団体 女子団体 女子単
女子バレーボール部	関西大学バレーボール春季リーグ		優勝	春秋連覇
	関西大学バレーボール秋季リーグ		優勝	
バトン・チア SPIRITS	関西学生バトン・チアコンテスト	7/4	金賞・グランプリ	チームバトン チア・リーディング 上級・ソロ
	バトントワリング関西大会	11/14	金賞	
剣道部	全日本女子学生剣道優勝大会	11/14	準優勝	
スキー部	全日本学生チャンピオンズスキー大会	12/20～23	準優勝（石井）	総合
少林寺拳法部	少林寺拳法全日本大会	11/7	2位 （甲斐・河田・森）	女子三人掛けの部
日本拳法部	西日本学生選手権大会	5/25	ベスト8	
空手道部	全関西大学空手道選手権大会	10/11	優勝	1部昇格
吹奏楽部	全日本吹奏楽コンクール	10/23	金賞	通算8回目

ランティアコーディネーター研究集会を日本ボランティアコーディネーター協会と共催にて開催した。

3 国際交流について

我が国の高等教育のグローバル化は着実に進展しつつあり、世界に向けて積極的にアピールすることが求められる時代となった。

本学においても、「第4次長期計画」から継続して、様々な文化的背景を持つ留学生を広範に受け入れるとともに、本学学生を世界各地の大学へと積極的に派遣する政策を展開してきた。その推進のため、留学しやすい環境整備をすすめるとともに、戦略的な国際連携や国際化拠点の形成に取り組み、長年にわたる地道な国際化に向けた努力の結果、「多文化共生キャンパス」の創出を一定程度実現してきた。

「第5次長期計画」においては、英語による学位取得課程を研究科レベルに開設するための検討を開始するとともに、英語による短期受入プログラムの一層の拡充を目指しており、このことは、様々な課題に果敢に取り組む人材の育成を図ろうとする基本方針に基づいている。

一方、国際化の進展に伴い、危機管理体制においても新たな緊急対応が求められた。2月末に発生したクライストチャーチの地震では、現地で学んでいた学生を、安全に日本に緊急帰国させるため、2名の教員を派遣した。また、3月の東日本大地震では、受入留学生の一部が、母国や派遣大学からの帰国指示により途中帰国することとなった。

1 海外ブランチRUBeCの活用

●理工学研究科のプログラムの展開

カリフォルニア大学デービス校(U.C.Davis)との連携のもと、「東洋の倫理観に根ざした国際的技術者養成」を目標とする大学院科目「RUBeC演習Ⅰ・Ⅱ」をRUBeCにおいて開講し、理工学研究科修士課程の大学院生16名が同科目を履修した。

●BIE Programの充実

BIE Program留学の出発前に実施する新たな授業として“インタラクティブ・エクササイズ”を導入した。このエクササイズは、できるだけ早くアメリカでの授業に慣れることができるように、本学受入留学生達との相互実習方式のもと合宿形式によって実施し、BIE Programに参加予定の学生にとって有用な事前授業となった。

●国際シンポジウムの開催

「日本の仏教と文化」というテーマで国際シンポジウムを開催した(会場: UC Berkeley)。本学教員と、コロンビア大学、UC Berkeleyの東アジア研究者が各研究テーマに基づき、お互いの研究成果についてプレゼンテーションを行い、研究交流を深めた。

2 海外の大学等との交流

●学生交換留学協定校の開拓

以前から希望していた、ハワイ大学マノア校との学生交換協定締結が実現したことにより、本学のハワイ拠点として活性化していく基軸となった。また、スロベキアのコメンスキー大学人文学部においても、英語によるプログラムへ派遣が可能となり、留学先はさらに充実した。

●短期受入プログラムの充実方策の検討

これまでJapanese & Asian Studies (JAS)を英語による短期受入留学生プログラムとして拡充する方向で検討を重ねてきたが、今後はJapanese Culture & Language Program (JCLP)を、日本語初修者や日本語未履修者を対象として、従来以上に広がりをもった短期受入プログラムへと改革するという新たな方向性に基づき、その実現に向けた方策を継続的に検討することとなった。

●国際交流ラウンジの活用

派遣・受入留学生が求める情報を提供するために、関係資料の充実を図った。また、利用スペースを拡充させたことにより相談ブースを設置することができ、留学から帰ってきた学生と将来留学する学生とが相談、意見交換をするなど交流が深まり支援体制が充実することができた。

●地域交流に関する検討

週末ホームステイの実施、さらに短期ホームステイ制度について調査を行い、2011年度実施に向けての検討を行った。

3 留学生別科の展開

●交流型プログラムに関する充実方策の検討

さらに多くの留学生を受け入れるとともに短期受入留学生の満足度を向上させるために、Japanese Culture & Language Program (交流型)の拡充について、その具体的な展開方法を検討した。

●進学型プログラムに関する充実方策の検討

主に進学を目的とする留学生別科生が、本人の希望にあった大学や大学院の入学試験に合格できるための能力を養成することを目的として、Japanese Culture & Language Program (進学型)を進学に特化した日本語能力向上のためのプログラムとするための検討を行った。また、同時に留学生別科生が自身の希望にあった進路選択ができるため、進路指導の充実を図った。

4 外国人留学生の教育・生活支援

●就職支援の強化

2010年度は、経済産業省が2007年度に開始したアジア人材資金構想「高度実践留學生育成事業」の第3期生が就職活動を行う年度にあたり、自己分析、エントリーシートの書き方、ビジネス日本語の講座受講を進めるなど、留学生の就職支援の強化を図った。

●留学生の住環境整備

留学生寮として利用している龍谷会館は、2010年度からラグビー部と共同利用しており、快適に生活できる住環境の整備について検討を進めた。また、住宅保証の一環として新たにスタートした「留学生住宅支援制度」は、1年を経過して、不動産会社や物件所有者からも認知されはじめ、

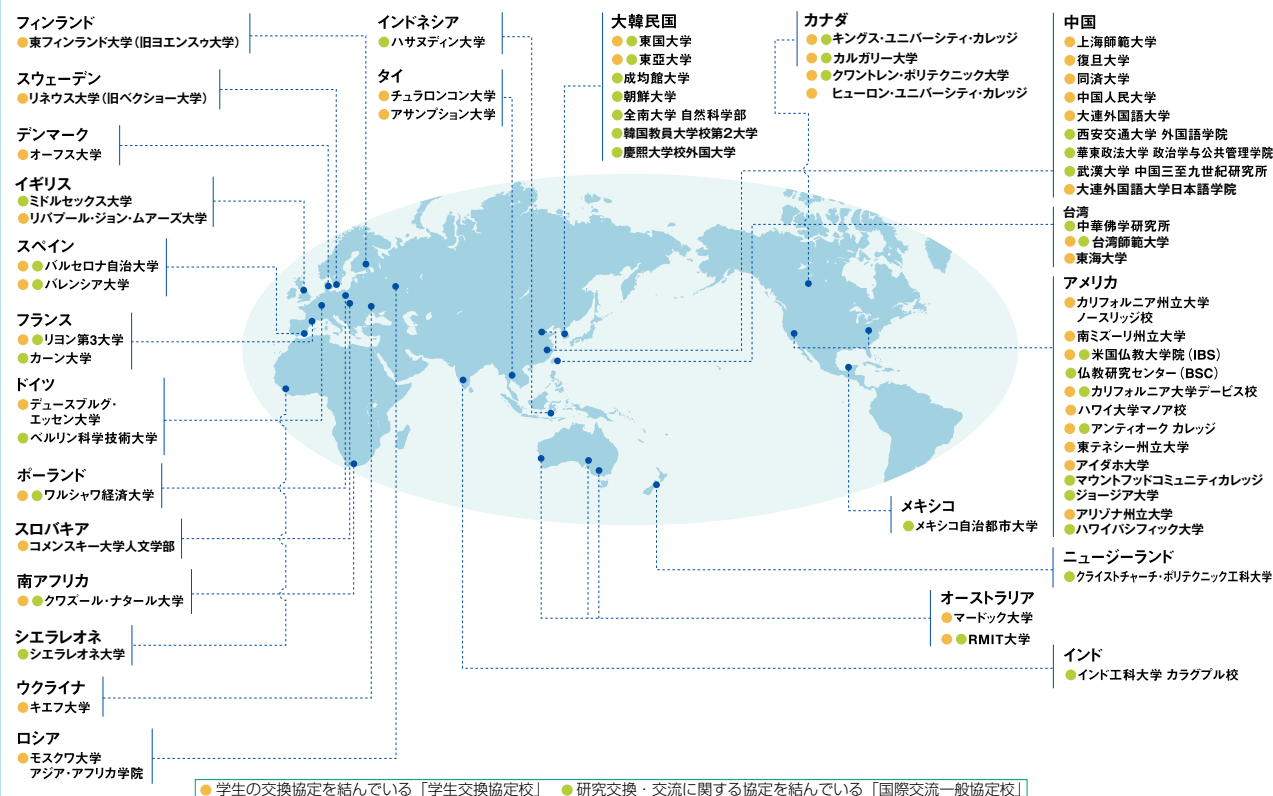
昨年度までの「留学生住宅保証制度」の後継事業として定着してきた。

● 面談室の活用

留学生別科生や受入交換留学生に対する面接・進路指導や臨時試験会場として活用した。また、留学生寮チュータ

ーが毎月行うミーティング、短期大学部を中心とした“Lunch Time English”、派遣留学生を支援する学生組織であるSABSのミーティングなどの会場としても有効に活用した。

世界に広がる「学生交換協定校」「国際交流一般協定校」



本学から海外に留学した学生数〈2010年度〉

留学先	人数	留学先	人数
アジア	タイ 4	ヨーロッパ	英国 19
	大韓民国 14		スコットランド 1
	中国 28		スウェーデン 6
	台湾 3		スペイン 1
北米	カナダ 47		デンマーク 2
	アメリカ 138		ドイツ 13
オセアニア	オーストラリア 45		フィンランド 1
	ニュージーランド 31		フランス 14
			マルタ 9
			チェコ 12
			ハンガリー 12
		アフリカ	南アフリカ 1
合 計			401

海外から受け入れた留学生数〈2010年度〉

国名等	人数	国名等	人数
アジア	インドネシア 5	ヨーロッパ	イギリス 4
	大韓民国 33		ウクライナ 1
	カンボジア 2		スウェーデン 2
	シンガポール 4		スペイン 2
	スリランカ 4		チェコ 1
	タイ 6	ヨーロッパ	デンマーク 2
	台湾 14		ドイツ 3
	中国 401		フィンランド 4
	東ティモール 1		フランス 2
	ベトナム 2	オセアニア	ポーランド 2
アフリカ	マレーシア 4		ロシア 2
	ミャンマー 4		オーストラリア 1
	モンゴル 3		フィジー 1
	エチオピア 1	中東	アフガニスタン 2
	ザンビア 1		イラン 1
		中南米	ブラジル 1
		北米	アメリカ 10
			カナダ 5
合 計			531